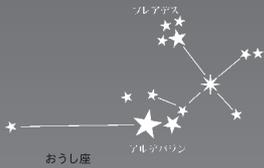


ポラリスを仰ぐ北の大地から



余市パイピングソサエティ

余市医師会 会長 小嶋 研一

余市パイピングソサエティは余市町のバグパイプ集団です。余市町は昭和63年にスコットランドのストラスケルビン市(現、イーストランバート市)がニッカウイスキー創業者竹鶴政孝氏のリタ夫人の故郷であることから、姉妹都市提携を結びました。

人的交流も盛んになり、余市町の町民もスコットランドに行き、文化を肌で感じてきました。

平成元年にスコットランドに町民と一緒に同行した余市町役場職員の中に新谷邦夫氏がおりました。新谷氏はかねてから興味を持っていたバグパイプ演奏を本場で聞きその魅力に魅せられました。帰国後さっそくバグパイプを購入しほぼ独学で練習し、仲間を集い平成2年8月30日に余市パイピングソサエティを発足させました。

バグパイプの演奏は、大変高度な技術と体力を要し、音階はアラビア音階で楽譜も独特なものです。一曲マスターするのに猛練習をして3ヵ月以上かかりました。新谷氏が申しますには、人前で恥ずかしくない演奏が可能となったのは、発足して3年後位からとのことでした。

平成25年10月20日に「余市バグパイプの祭典」がニッカウイスキー工場を中心に全国のパイプバンドが集結し、スコットランド、香港からも多数参加して盛大に開催されました。

平成26年にはNHKの連続テレビ小説「マッサン」にも出演し演奏するほどになりました。平成27年3月に札幌市で開催された「世界女子カーリング選手権札幌大会」の開会および閉会式で選手入退場の演奏を担当いたしました。

パイパー4名スネアドラム1名バスドラム1名の計6名で活動している少人数のパイプバンドですが、全国のバグパイプ奏者で知らない人は居ないぐらい有名なパイピングバンドとなりました。新谷邦夫氏は現在もリーダーとしてバグパイプ普及のため現役パイパーとして活躍しており、今年も20回程の演奏を依頼されました。

現在余市医師会事務局長として当医師会運営にご尽力され、独学にて日本で有数のバグパイプ奏者となられた新谷邦夫氏に心より敬意を表し筆をおきます。



新ひだか町における私の医療 —これまでの10年とこれからの10年—

日高医師会 会長 小松 幹志

今から10年前の平成18年9月、私は日高の地新ひだか町立静内病院に赴任した。それまでは大学病院にて20年間心臓血管外科の臨床・教育・研究に没頭し、留学も経験していた。主戦場を大学から町立病院に移すことで、今まで培ってきたことを生かすことはできないか考えた結果、日高における循環器診療を充実させようとした。町の協力を得ながら必要な医療資機材を調達し、看護師を含めたスタッフの教育を行い、翌年4月から循環器科を開設した。開設から2年間は医療環境の充実と町内医療機関との関係構築に力を注いだ。町内で開業されている先生方との対話の中で町立病院の在り方が見えてきた。平成21年に日高医師会会長に就任してからは、町内外の医療機関と連携を深める手法を考え、「バーチャル総合病院構想」というICTを利活用する事業の基本的な概念を作り上げた。この事業は国ならびに道の援助を受け、各種ノウハウが蓄積し、今後町内外の医療機関との連携につなげていきたいと思っている。

平成28年になり、日高全体での病床再編や超高齢社会に向けた医療・介護・福祉連携の課題解決に向けた自治体の取り組みがあり、当院でも課題に対応すべく、循環器疾患に対する急性期から回復期治療を行うべく規模を拡充し、患者が入院から退院までの治療やリハビリテーションが可能となる施設構想を策定している。また、医療人材確保のため北海道科学大学との連携協定を締結した。今後人材育成を行い、日高管内への人材供給ができるようになってくればと願っている。

この10年は循環器診療の基礎固めをすることに腐心してきたが、これからの10年は日高管内7町の医療・介護・福祉の連携ならびに医療人材の育成に積極的に取り組み、国の医療政策の変化にも遅れることなく対応できる体制を築いていきたいと考えている。